

世界の森林資源

中島 巖*

世界での森林資源は現在どれだけあり、その面積や量が、どんなスピードで変遷をとげあるかの正確な数字をつかむことはできない。それは、全地球的な、信頼するに足る情報の収集と整理システムがないからである。

現在、われわれは最も確からしい数字としてFAOの“Year Book of Forest Product”を使わざるを得ない。それにしても各国別の報告を集計したものであり、その内容・基準の統一までにはいたっていない。したがって、面積にしても、これで年次変化を追おうとすれば、日本の如くに森林登録面積のために、全く不変のものもあれば、中国の如く年に3千万ha近く増減するところもある。ただし、熱帯林地方については“Tropical Forest Resources, FAOおよび“Forestry Resources of Tropical Asia, FAO, がそれらに対して衛星写真の解読等を補足して面積の加減修正を行なったものとしてより詳細である。しかしその結論の数字に至る経過は明らかでない。

いづれにしても、これらを整理してみると、オセアニアを含む暖・温・寒帯林地帯と、熱帯林地帯との森林面積は、ほぼ同様でそれぞれ約20億ha強である。そして、熱帯林地帯の減少はいちぢるしく注目されているが、其他については林地の保続が図られているとされているが、その半ば近くを占めるソ連の実体が明らかでない。事実、衛星写真其他で亜寒帯林の伐採進行は明白であるが、報告による林地面積は不変である。

世界的な森林資源の減少を認識させているものは、特に近代に生じた、発展途上国における荒廃地の激増と半乾燥地帯での砂漠化の進行であり、それは原住民の生活環境をうばい、社会生活存続の基盤をゆるがせつつある。その最大の原因は、人口増にあるとしても、それに拍車をかけているものは、近代化社会が要求する巨量の企業原料資源の消費である。この現実には、今後における森林資源の運営管理を長期に亘る地球資源、土地利用計画に基づくものへの提唱をもたらすに至った。その最も注目される報告として1980年のアメリカ大統領への特別報告「西暦2000年の地球」とFAO林業叢書No.30「熱帯森林資源」：1982. 4.がある。

前者では年々1800～2000万haの森林が、後者では1130万haの森林が減少し続けていると推定している。

後者は、再び森林を復元する可能性を持つ伐採地の内に、休閒林の名を与えて喪失林地の面積からこれを除いているが、多分に将来における人為の有効管理に期待するところが多く、この数字に疑問を投ずる見解も多い。

* 日本林業技術協会

グローバルな森林資源情報整備確立の要請は、特にこの森林減少が、地球大気における炭酸ガス増加につながり、引いては気象環境の変化に直結するものとしての危惧からも提唱されている。

この場合、森林資源の計測法は、木材資源量としての計り方と同時に、地球上の炭酸ガス貯蔵倉庫として、またその固定能力のバイオマスとして、また、森林それ自体と、それに接する土地、大気の水分会全容力、その比熱抵抗ポテンシャルとしての計測など、多くの新しい指標を満すものでなければならぬものである。

そして、その前提となるものが、これらの基礎的課題の解明と、グローバルな森林データバンク機構の確立であろう。

世界の森林面積と人口

(FOA生産統計年鑑1978より)

地名	面積	人口	森林率
ソ連	920,000千ha	26,157万人	41%
ヨーロッパ	154,656	48,000	31
北米大陸	615,629	24,156	33
中国・モンゴル	136,719	93,461	16
南北朝鮮	15,563	5,409	71
日本	24,867	11,490	67
オセアニア	155,176	2,210	18
小計	2,050,347	217,447	
南米	920,807	23,300	53
中米	98,512	9,307	
アフリカ	637,003	44,200	32
アジア	394,025	140,640	18
小計	2,050,347	217,447	

図-1 1980年度末における熱帯林の推定面積

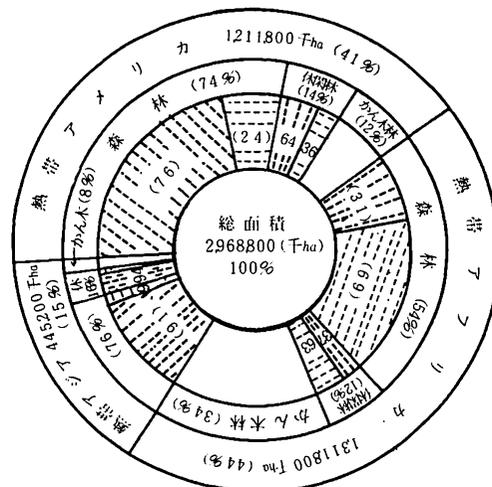


図-2 広葉樹密林の面積

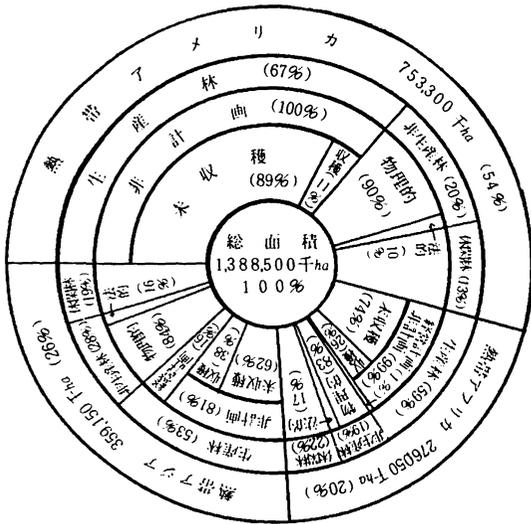


図-3 針葉樹林の面積

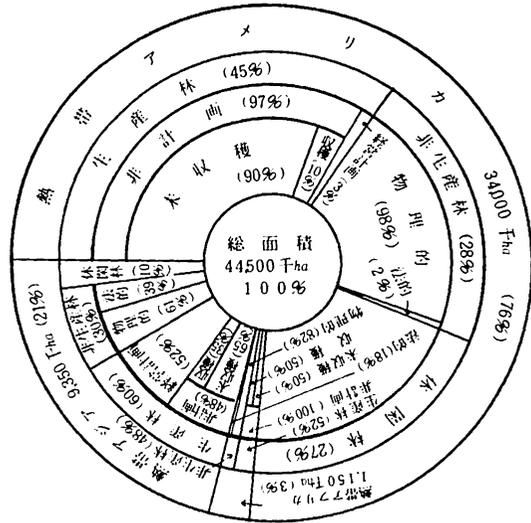


図-4 生産林（密林と疎林）の蓄積

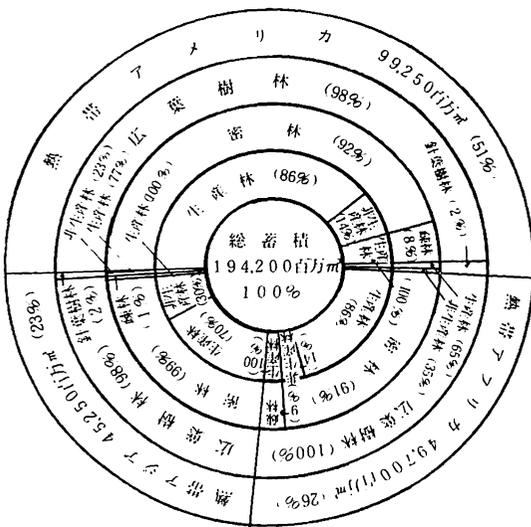
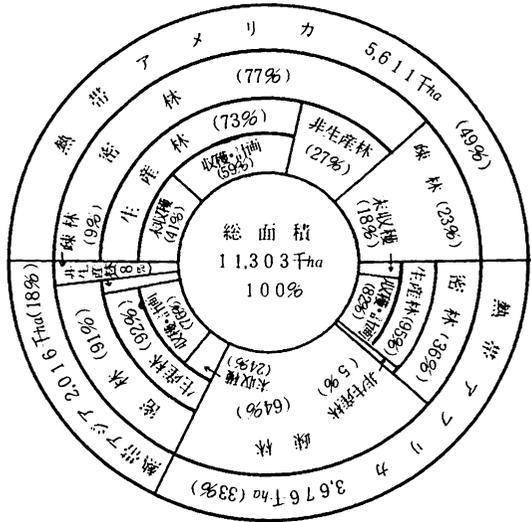


図-5 1981～1985年間の密林・疎林における年平均森林破壊



(図-1～5は、渡辺桂；林業技術 No.484の表-1～5によって作図したものである)